

窓口支援事例 【INPIT 愛媛県知財総合支援窓口】 2019年度版

企業情報

四国ケージ株式会社

所在地	愛媛県四国中央市		
ホームページ URL	https://shikoku-cage.jp/		
設立年	1967年	業種	製造業
従業員数	9人	資本金	1,000万円

企業概要

当社は、鶏舎で異常発生するワクモ（ニワトリの血を吸い生息するダニ）を駆除するための、ポジティブリスト制度に対応したワクモ対策商品の開発を行っております。

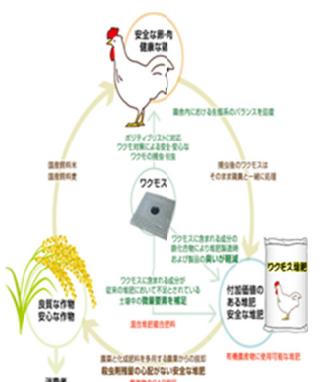
天然由来の殺虫（制虫）成分と生分解可能な素材で構成され、使用後は堆肥として土壌還元が可能である捕虫器などの製造・販売を通じて資源の循環に貢献しています。

また、殺虫剤の使用削減による環境への負荷を低減させることができることで、環境にも配慮した企業活動を行っております。



当社ビジョン「安全・安心な農畜産物を子供達へ」のもと、「日本国内だけではなく、世界へ向けて発信できる商品」を目標に SDGs に則った商品の開発をしております。

現在、日本・米国・EU にて特許を取得した捕虫器「ワクモス」から派生した新たな商品として、畜舎環境清浄剤および臭いを著しく低減した畜糞由來の肥料等、新たな開発・フィールドテストを行っております。



一押し商品

・ワクモ捕虫器「ワクモス」(国際出願番号 PCT/JP2015/079361) 日本を含め世界中の養鶏産業において鳥インフルエンザ以上の問題が吸血性ダニ「ワクモ」の異常繁殖があります。しかし、ニワトリのいる環境下での殺虫剤の使用は危険であり、安心・安全なタマゴを生産するには、新たな安全なワクモ対策が必要です。

「ワクモス」はワクモの行動特性を利用し、置くだけで効率よく短時間で大量に捕え、制虫できます。

国際公開番号：WO2016/088458 (CN, KR は公開中)

登録番号：JP6366119 US10314299 EP3228190

登録商標：第 5845397 「ワクモス」 第 6023207 「ワクモス堆肥」



知財総合支援窓口活用の概要（記：窓口担当者）

窓口活用のきっかけ

同社からの最初の相談は、2013年11月です。「養鶏用ケージの樋金具を考案して実用新案を得しようと思い、明細書原稿を作成しました。以前に、特許出願したことがあり自分で明細書を記載したが、わからないところがあるのでアドバイスが欲しい。」という内容で愛媛県知財総合支援窓口に連絡をいただきました。

最初の相談概要

養鶏用ケージの樋を支えるための金具の幅を従来に比べて細くしました。従来の金具は幅があり、樋と金具との隙間にワクモが潜んでしまう。そのため、殺ダニ剤による効果的な駆除が難しかった。金具を細くすることにより、金具と樋本体やケージと接する面を極力少なくすることで、ワクモの潜むスペースを減らすことができ、殺ダニ剤による駆除効果が向上しました。技術的特徴のレベルから、実用新案登録で宣伝することを目的とする考えです。ワクモ対策樋吊金具「ワクモナイナイ」(実用新案 登録 3190762 号)

その後の相談概要

ワクモス技術の出願について特許 or 実用新案の選択の相談を受け、代理人による特許出願を行いました。その後、本件の国内優先権出願、PCT 出願及び商標出願相談に対応し、PCT 出願の ISR の結果から権利化可能範囲の検討支援を行い、権利化可能範囲と実際の販売製品との比較により、構成要素が含まれることを確認して、日本への国内移行と早期審査による権利化を提案しました。これらの支援と並行して PCT 出願の海外移行国の検討について支援を実施しました。

窓口を活用して変わったところ

元々、知的財産権に対して高い意識を持っていた状況下で、登録実用新案の活用により他社牽制効果、販売増への効果を実感されました。

結果として、「事業に貢献できる知財権の取得」という明確な意識を持って知的創造サイクルの実現に向けての活動を継続的に実施されています。

企業からのメッセージ

権利化の過程で知的財産権に関する知識を高めることができました。また、代理人とのやり取りの内容についてセカンドオピニオン的な意見を受けることができ参考になりました。

今後も、知財総合支援窓口を上手に活用し、当社の知的財産価値の向上を図りたいと考えています。

窓口担当者から一言（氏名：堀田 雄二）



従来に引き続き、「事業に貢献できる知財権の取得」を継続し、事業の維持・拡大を推進される中で、必要に応じて知財総合支援窓口を活用していただくことを希望します。